

● 記念式典に臨んで

「縁」「絆」「聴」「鳳」によせて

愛知県名古屋市長緑区 大竹 由紀子



「その日」

平成30年6月18日は、生涯忘れられない一日となった。思いがけず全国行政相談委員連合協議会の会長特別表彰をいただくことになり、上京するため、朝7時58分、玄関を出ようとしていた私は、後に命名された「大阪北部地震」の影響で、震度4に足元を掬われたのである。外は土砂降り。JR東海の在来線は不通、新幹線も小田原付近で動かないというテレビの情報に困り果てた。でも、何としても行かねば……。タクシーを乗り継ぎ名古屋駅にやっと着いたのに、切符売り場は、変更・払い戻し等の手続きを待つ人たちの十重二十重の長蛇の列であった。

ニュースでよく見るその光景は、傍観者として見るのとは違い、当事者には混乱・戸惑い・怒り・疲労・諦めしかなかった。

それでも仕方なく、「手続きの最後尾」と書かれた駅員の持つプラカードの列に並び「もう、式典には出られないかも」と全相協の事務局に泣き顔マーク入りで連絡を入れ、欠席の覚悟をきめた。

50分余も待ったその列を離れるには勇気が要ったが、「とにかくホームにいこう！」とがむしゃらに改札口を突破した直後、改札は閉鎖され、遅延は4時間半に及んだ。ようやく来た列車に乗り、落ち着いて分かったことがある。あのまま駅員の誘導に従っていたら、私は深夜の東京着。もちろん式典どころか、いろいろな「不思議な縁」にも巡り合わなかっただろう。どんなに状況が混乱していても、情報を自分なりに分析して、自己責任で果敢に行動することの大切さを今回も学んでしまった。

「縁」

式典に先立って、受付の横に設けられたコーナーをのぞくと、全国の地相協の機関誌が展示されており、また、「縁」「絆」「聴」「鳳」と墨こん鮮やかな色紙もあった。今年度発行される「季刊行政相談」各号の表紙を飾る作品である由。

私は、出席者資料を見て思わずうれしくなったお名前を発見した。南砂様である。以前、医薬分業についてのご講演を拝聴し、当時私が手掛けていた「院外処方箋の4日間期限表示についての改善策を提案した」件でお話しした方。南様は、「行政苦情救済推進会議」の委員でもある。私たち地方の行政相談委員が、周りの苦情の声を制度改善に結び付けたいと月例報告に書いていた事案を審議する中央側に、このような女性の視点を持った方の存在があること



いつもサポートしてくれた優しい夫とともに

を知り、かねてより心丈夫に思っていた。このような場で、再びお目にかかれたことにも「ご縁」ありを感じる。

さらに、懇親会のテーブルでは、群馬地相協会長の志田洋遠様と隣席となり、初対面にもかかわらず、年齢が近いことも判って、すぐに相通ずるものを二つ感じた。

一つ目は、名刺のこと。志田様の名刺には、見事な樺の木の透かし彫りがあった。行政相談委員の周知を図るため、このように名刺に工夫をされている由。私も同じ想いをもっている。委嘱を受けた平成元年から、名刺にはお目にかかるその季節の花を色鉛筆で一枚一枚描き、覚えていただけるように…と30年近く続けてきた。うまくない絵ではあっても、そこから会話の糸口は開く。

二つ目は、「このような活動を続けていられるのは、妻や夫のサポートがあつてこそ」という点である。志田様は、奥様に感

謝をしているとおっしゃった。「この会場にいる方々は皆さんそうじゃないか」とも言われ、私は大きく頷いた。

あちこち動く私に「今日も俺は、みなしごハッチか？」と揶揄しながらも、各局面でどう動けばよいのかを的確に助言してくれる夫がいたから、長い間自由に泳がせてくれたからこそ今日の表彰があるということ。こういう夫に巡り会えたのも「ご縁」といふべきだろう。マス酒のせいとか、どんどん口は滑らかになって、「水沢うどん」「名古屋きしめん」などの単語が飛び交い、情報交換の輪は広がっていった。

「絆」

外神田の全相協の会議室において、出前講座の冊子づくりで、何度も討議を一緒にさせていただいた多くの方々にも再会できた。全相協の企画業務に参画し、委員活動の活性化の推進に貢献された方々である。いつお会いしても、エネルギーシユで志の篤い方々であり、私の活動のモチベーションを高めてくださっている。

中部管区での関わりのある人たちと一緒に写真に納まり、絆を深めることもできた。お顔がわかったので、これから何かとご相談できそうだ。

「聴」

行政相談窓口のマスコットキャラクター「キクーン」犬が登用された。国民の声に耳を傾け「聴く」こと、大切な一文字だ。聴くことから何かが生まれ、制度も改善されていく。

「鳳」

鳳凰は、古来中国で尊ばれている瑞鳥とされている。私利私欲を求めず人のために動き、オンブズマン制度と同様に国際的に羽ばたけるようにとの願いを込めて書かれた「鳳」。

FOR(だれかのために)と「鳳」を重ね合わせて未来につなぐと聞くと納得がいく。

松本専務理事のご挨拶にもあったこれらの四文字と、見事に揮毫された書を拝見しながら、改めて表彰のもつ意味を考えた。私にとつては、会長特別表彰受賞もうれしいが、それを上回る「ご縁」「絆」を確認できた記念式典であった。また必死になつて新幹線に飛び乗った甲斐のある一日でもあった。

五十周年記念宣言にのっとり、「行政相談委員ってなに？」の原点に戻って、あともう少し、頑張ってみよう。